

見る 思う

JBC倫理委員会委員長、弁護士 岡筋 泰之さん



スポーツ界に必要な「公平」「公正」

スポーツは感動を呼び、文化や立場を超えて人々をつなぐ力を持っています。そのスポーツの平和創造機能の尊さを日々実感する一方で、私は弁護士として、選手たちの努力が正当に評価されない現実にたびたび直面してきました。

暴力やハラスメント、契約トラブルや人権侵害といった不祥事が今もなお、スポーツ界を揺るがしています。これらの問題の多くは「当たり前」の法令順守や契約意識が時として、スポーツの現場で欠如していることに起因します。

私は弁護士として、さまざまなスポーツ団体や選手の相談に対応してきました。また、現在、一般財団法人日本ボクシングコミッション（JBC）の倫理委員会委員長として、スポーツ団体のガバナンスや透明性の確保にも関与しています。

過去には、ボクシング元世界ミニムム級王者・高山勝成選手の代理人として活動していました。プロボクシング選手である高山選手が、オリンピック予選の競技場に立つために、制度の壁を超える必要がありました。

私は代理人として、競技団体との交渉やマスメディア対応、そしてスポーツ調停・スポーツ仲裁などの法的支援を通じて、選手が競技に出場するという公正な機会を確保するために奔走しました。

その結果、高山選手の選手登録が認められ、さらに元プロ選手たちもオリンピック予選考会という競技

の場に立つ機会を得られたことは、本当によかったです。

スポーツの現場では、金銭の取り決めが曖昧で、契約書も交わされていないことが珍しくありません。スポーツ団体によるチェック機能も十分に機能していないケースも散見されます。

2024年11月には「フリーランス保護法」が施行され、プロアスリートもその保護対象となる可能性があります。スポーツ庁もキャリア支援に取り組んでおり、法制度は徐々に整備されつつあります。

しかしながら、制度があるだけでは不十分です。現場で適切に運用されて初めて、選手たちを守る力になります。

若い世代のアスリートたちは「自分の権利を守りたい」「競技の先にあるセカンドキャリアも充実させたい」と声を上げて始めています。その声に応えるためにも、法律の専門家が、選手やスポーツ団体の現場に寄り添う体制が求められます。

これからのスポーツ界に必要なのは、「勝利」だけでなく、「公平」と「公正」です。

選手の声に耳を傾け、組織の透明性を高め、信頼されるスポーツ環境を築く。その一翼を担う存在として、私たち法律家の役割はこれまで以上に重要です。

スポーツの健全性と感動を守るために、今後も責任を持って取り組んでいきたいと考えています。

おかすじ ひろゆき 1982年大阪府生まれ。京都法科大学院卒。

大阪・神戸を拠点とする至道法律事務所代表弁護士。JBC倫理委員会委員長など。主な著書に『スポーツ法 相談ハンドブック』（共著）。